

第272回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和6年6月1日(土)
会 場 ステーションコンファレンス東京 5・6階 (千代田区)
第I会場 (503CD)
第II会場 (503AB)
第III会場 (501A)
第IV会場 (501B)
第V会場 (602AB)
PCセンター (501S)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー4～6階
TEL 03-6888-8080

会 長 東海大学医学部 内科学系循環器内科学
吉岡 公一郎

御 案 内

1. 参加費：会員／非会員(医師) 3,000円
後期研修医、コメディカル 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。
2. 受付時間：参加受付 8:30-18:00
PCセンター 8:30-17:30
3. 一般演題発表時間：口演5分、討論3分
4. Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)
Student Award：第II会場：16:00-16:50
Resident Award：第II会場：17:00-17:50
Case Report Award：第I会場：17:00-17:50
Clinical Research Award：第I会場：16:00-16:50
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 1) 正しい医学用語の使用
 - 2) 発表時間の厳守と態度
 - 3) 考察
 - 4) 質問に対する応答
 - 5) 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
5. その他：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただくかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

託児サービスのご案内：

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。

評議員会：地方会終了後、第I会場で行います。

(懇親会は5階フロアにて行います。)

次回地方会：第273回地方会は次の通りです。

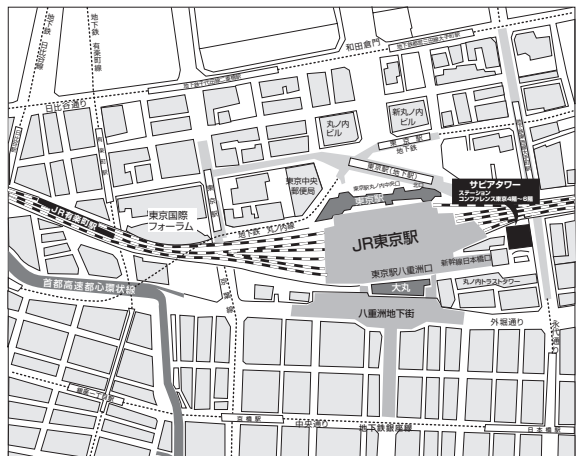
日時：令和6年9月7日(土)

会場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)

会長：猪又 孝元

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分

八重洲北口改札口 徒歩2分

東京メトロ東西線「大手町駅」B7出口から直結

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、以下の要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。

●Windows でデータを作成された場合：データをお持ち下さい

- USBフラッシュメモリに保存してご提出下さい。
(DVD・FD・MO等は受付できませんのでご注意ください。)
- OSはWindows 10、アプリケーションはPowerPoint 2013、2019、2021に対応しております。
それ以外のソフトや動画が多い場合は、ご自身のPCをお持ち下さい。
- フォントはOS (Windows 10) 標準のもののみご用意致します。
日本語：MSゴシック・MSPゴシック・MS明朝・MSP明朝
英語：Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century
Century Gothic・Courier・Courier New・Georgia
これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ・文字化け・表示されない等のトラブルが発生する可能性があります。
- 液晶プロジェクターの解像度はフルHD (1,920×1,080dpi) まで対応しております。
- ご用意いただくUSBフラッシュメモリのウイルスチェックを事前に行ってください。
- ご発表開始時刻の30分前までにPCセンターでご発表データを試写確認のうえ、ご提出下さい。
午前の最初のセッションの時間帯ではPCセンターが混雑しますので、お早めにお越し下さい。
- 発表者ツールの機能はご使用にはなれません。
- ご発表データは事務局で責任を持って消去致します。

●Macintoshでデータを作成された場合：ご自身のPCをご持参下さい

- 必ずACアダプターをご用意下さい。



HDMI



HDMI



付属外部出力ケーブル例

- 動画もご利用いただけますが、再生できることをPCセンターで必ずご確認下さい。
- 利用機種・OS・アプリケーションに制限はありませんが、HDMIによるモニター出力が必要です。
ご持参いただくPCからHDMIへの変換コネクタが必要な場合には、各自でご用意下さい。 HDMI以外の接続はお受けできませんので予めご了承ください。
- ご講演時は演台にあるマウス又はキーボードにてスライドの操作をお願いいたします。操作機器の接続にUSBポートを使用するため、USBポートがないPCをお持ちの場合は変換コネクタをご用意ください。(例：MacBook Type-CからUSB変換)
- スクリーンセーバー、ウイルスチェックならびに省電力設定は予め解除しておいて下さい。
- 電源ケーブルを必ずご持参下さい。バッテリーでのご使用はトラブルの原因となります。
- 発表開始時刻の30分前までに、PCセンターで試写を行ってください。PCセンターならびにPCオペレーション席ではデータの修正・変更は行えません。
- 念のため発表用データのバックアップを必ずご持参下さい。
- ご持参頂くPCに保存されている貴重なデータの損失を避けるため、必ず事前にデータのバックアップを取っておいて下さい。
- PCをお預かり時にお渡しする半券はPC返却時に必要ですので大切に保管して下さい。
- 発表者ツールの機能はご使用にはなれません。
- ご講演時に原稿が必要な場合は、予め印刷してご持参下さい。

第272回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和6年6月1日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 5・6階（千代田区）

会長：東海大学医学部 内科学系循環器内科学 吉岡 公一郎

第Ⅰ会場		第Ⅱ会場		第Ⅲ会場		第Ⅳ会場		第Ⅴ会場	
8:50	開会挨拶								
9:00	会長企画セッションⅠ 9:00-10:30 難治性心室頻拍への挑戦	9:00 一般演題 9:00-9:40 虚血性心疾患1 セッション1	9:40 一般演題 9:40-10:30 デバイス/モニタリング セッション2	9:00 一般演題 9:00-9:40 弁膜症1 セッション3	9:40 一般演題 9:40-10:30 外科的治療 セッション4	9:00 一般演題 9:00-9:40 肺高血圧 セッション6	9:40 一般演題 9:40-10:30 心不全/他 セッション7	9:00 一般演題 9:00-9:40 冠循環・肺循環/他 セッション9	9:40 一般演題 9:40-10:20 虚血性心疾患2 セッション10
10:30	休憩	10:30 休憩	10:30 休憩	10:30 休憩	10:30 休憩	10:30 休憩	10:30 休憩	10:20 休憩	10:30 休憩
10:40	教育セッションⅠ 10:40-12:10 ACSの診断と治療 演者：山口 淳一 (東京女子医科大学循環器内科) 演者：伊郊 裕二 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 演者：白比 潔 (横浜国立大学医学部循環器内科学) 演者：石井 秀樹 (群馬大学大学院医学系研究科 内科学講座循環器内科学分野)	10:40 教育セッションⅢ 10:40-12:10 心エコー図法の進歩 演者：鶴田ひかる (慶應義塾大学病院臨床検査医学) 演者：出雲 昌樹 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 演者：岩橋 徳明 (横浜国立大学循環器内科)	10:40 学術委員会企画セッション 10:40-12:10 心不全の支持療法～再入院を防ぐためにかりつ けができること～	10:40 会長企画セッションⅡ 10:40-12:10 心房細動治療の基本	10:40 一般演題 10:30-11:20 心筋炎 セッション11	10:40 一般演題 10:30-11:20 心筋炎 セッション11	10:40 一般演題 10:30-11:20 心筋炎 セッション11	11:20 休憩	11:30 一般演題 11:30-12:10 弁膜症2/外科治療 セッション12
12:10	休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩	12:10 休憩
12:20	12:20-13:10 ランチョンセミナー1 共催：第一三共株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー2 共催：バルティスファーマ株式会社/ 大塚製薬株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー3 共催：日本光電工業株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー4 共催：MSD株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー5 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー5 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー5 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー5 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー5 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム株式会社
13:10	休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩	13:10 休憩
13:20	教育セッションⅡ 13:20-14:50 心電図とAI 演者：鈴木 信也 (心臓血管研究所研究本部) 演者：後藤 信一 (東海大学医学部総合診療学系総合内科) 演者：森 武俊 (東京理科大学 / 日本医療研究開発機構先端工学部 機能デザイン工学科 / 医療機器ヘルスケア事業部) 演者：鎌山 暢之 (順天堂大学循環器内科)	13:20 教育セッションⅣ 13:20-14:50 機能性房室分逆流を深掘りする 演者：町野 智子 (筑波大学医学部系循環器内科・臨床検査医学) 演者：橋本 剛 (東京大学医科センター大塚病院循環器内科) 演者：田端 実 (順天堂大学心臓血管外科) 演者：上岡 智彦 (東海大学医学部内科学系循環器内科学)	13:20 第19回 ダイバーシティ・ フォーラム/ 第5回 U-40 部会企画セッション 13:20-14:50	13:20 生物統計セミナー 13:20-14:20 医療統計および医療 経済に関する基礎知 識を学ぼう	13:20 一般演題 13:20-14:00 カテーテルアブレーション セッション13	13:20 一般演題 13:20-14:00 カテーテルアブレーション セッション13	13:20 一般演題 13:20-14:00 カテーテルアブレーション セッション13	14:00 休憩	14:10 一般演題 14:10-14:50 不整脈 セッション14
14:50	休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩	14:50 休憩
15:00	15:00-15:50 デザートセミナー1 共催：ファイザー株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー2 共催：プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー3 共催：エドワーズライフ サイエンス合同会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社	15:00-15:50 デザートセミナー4 共催：バイエル薬品株式会社
15:50	休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩	15:50 休憩
16:00	16:00-16:50 Clinical Research Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award	16:00-16:50 Student Award
16:50	休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩	16:50 休憩
17:00	17:00-17:50 Case Report Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award	17:00-17:50 Resident Award
17:50	閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶	17:50 閉会挨拶
18:00	評議員会								
18:10									

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション、医療安全・医療倫理に関する講習会）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しくださいますようお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）、医療安全・医療倫理に関する講習会（2単位）はそれぞれ単位の登録手続を行っていただく必要があります。

お手数ではございますがそれぞれの単位のご登録をお願いいたします。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～18:00（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 10:10～11:40/12:50～14:20（開始30分前から終了30分前まで）

■「医療安全・医療倫理に関する講習会」（2単位）受付時間 15:30～17:30（開始30分前から終了30分前まで）

医療安全・医療倫理
に関する講習会
(DVDセッション)
16:00-18:00

第 I 会場

会長企画セッション I

9:00-10:30

座長 (東京医科大学病院循環器内科) 里見 和浩

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 吉岡公一郎

難治性心室頻拍への挑戦

ハイブリッド融合画像を用いた心室性不整脈の評価の試み

(昭和大学臨床薬理研究所医学部循環器内科) 阿久津 靖
(昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 浅野 拓、新家 俊郎

心室頻拍基質の同定とカテーテルアブレーション

(筑波大学附属病院循環器内科) 小松 雄樹

心室頻拍アブレーション治療成績向上のために：心外膜アプローチ

(杏林大学循環器内科) 副島 京子

難治性心室頻拍に対する体外放射線治療の現状と課題

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 網野 真理
柳下 敦彦、伊苺 裕二、吉岡公一郎
(東海大学医学部専門診療学系放射線治療科学) 株木 重人
(総合東京病院放射線治療センター) 国枝 悦夫

教育セッション I

10:40-12:10

座長 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊苺 裕二

ACSの診断と治療

急性冠症候群：救急外来における評価・診断とその後の治療について

(東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一
南 雄一郎、春木伸太郎、嵐 弘之

急性冠症候群の急性期薬物治療

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊苺 裕二

Primary PCIの有効性と問題点

(横浜市立大学医学部循環器内科学) 日比 潔
(横浜市立大学附属市民総合医療センター) 岡田 興造、菅野 晃靖
(横浜市立大学附属病院) 岩橋 徳明

ACS症例における二次予防の重要性

(群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学分野) 石井 秀樹

ランチョンセミナー 1

12:20-13:10

共催：第一三共株式会社

座長 (小田原循環器病院循環器内科) 杉 薫

「心房細動の抗血栓治療—高齢社会におけるDOACの役割」

(北里大学医学部循環器内科学) 庭野 慎一

教育セッションⅡ

13:20-14:50

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 小寺 聡
座長 (慶應義塾大学医学部スポーツ医学総合センター) 勝俣 良紀

心電図とAI

From discriminability to precision: Shinken AI-ECG databaseから見える可能性と限界

(心臓血管研究所研究本部) 鈴木 信也

循環器臨床における人工知能の考え方 ー期待と限界ー

(東海大学医学部総合診療学系総合内科) 後藤 信一

センサによる遠隔みまもりと人工知能

(東京理科大学/日本医療研究開発機構先進工学部機能デザイン工学科/医療機器ヘルスケア事業部) 森 武俊

循環器領域の人工知能の可能性

(順天堂大学循環器内科) 鍵山 暢之

デザートセミナー 1

15:00-15:50

共催：ファイザー株式会社

座長 (横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター) 岡田 興造

日常診察に潜む見逃してはいけない疾患

二次性心筋症を見逃さないための見方・考え方

(北里大学医学部循環器内科学) 鍋田 健

様々な循環器疾患に潜む心アミロイドーシス

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座) 末永 祐哉

Clinical Research Award

16:00-16:50

座長 (北里大学医学部循環器内科学) 庭野 慎一

座長 (東海大学医学部付属八王子病院循環器内科) 吉町 文暢

審査委員長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹

審査委員 (防衛医科大学校循環器内科) 足立 健

審査委員 (信州大学救急集中治療医学) 今村 浩

審査委員 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 新家 俊郎

I-1 *FBNI* レアバリエントによって発症した非症候群性大動脈瘤・解離患者の臨床的特徴

(東京大学医学部附属病院循環器内科/東京大学医学部附属病院マルファン症候群センター) 八木 宏樹

武田 憲文

(東京大学医学部附属病院循環器内科) 石田 純一、赤澤 宏、武田 憲彦

(東京大学医学部附属病院ゲノム診療部/東京大学医学部附属病院マルファン症候群センター)

秋山 奈々

(東京大学医学部附属病院心臓外科/東京大学医学部附属病院マルファン症候群センター)

安藤 政彦、山内 治雄

(東京大学医学部附属病院循環器内科/国際医療福祉大学)

小室 一成

I-2 アブレーション術前の全身CTはスクリーニング検査として有用か

(君津中央病院循環器内科) 渡邊 悠斗

石村 昌之、山本 雅史

(千葉大学循環器内科学) 小林 欣夫

I-3 経皮的冠動脈形成術前の血圧が急性心筋梗塞患者の予後に及ぼす影響

(東京女子医科大学病院循環器内科) 柴橋 英次

嵐 弘之、吉川 将史、川本 尚宜、神林 敬悟、

稲垣 裕介、山口 淳一

I-4 高齢心不全におけるガイドラインに基づく標準的治療(guideline-directed medical therapy)の臨床的意義
(日本大学医学部循環器内科) 八田 拓海
齋藤 佑記、溝渕 公規、北野 大輔、小嶋 啓介、
村田 伸弘、深町 大介、奥村 恭男

I-5 急性心筋梗塞患者の集中治療室・一般病棟・外来での不安抑うつ変化への検討:単施設後ろ向きコホート研究
(東海大学医学部付属八王子病院循環器内科) 橋本 佳穂
濱 知明、森田 典成、吉町 文暢、小林 義典
(東海大学医学部付属八王子病院看護部) 尾崎 裕基、山口 晃平
(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊莉 裕二

Case Report Award

17:00-17:50

座長 (千葉大学大学院医学研究院循環器内科学) 小林 欣夫
座長 (杏林大学医学部付属病院循環器内科) 矢田 浩崇
審査委員長 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学) 池田 隆徳
審査委員 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター総合診療部) 関 晋吾
審査委員 (埼玉医科大学国際医療センター心臓内科・不整脈科) 加藤 律史
審査委員 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 鈴木 洋

I-6 左心低形成症候群・Fontan型手術後の人工弁感染による心原性ショックに対し中心性膜型人工肺で救命した一例
(信州大学医学部附属病院循環器内科) 鈴木 翔
元木 博彦、井口 純子、加藤 太門、三枝 達也、
海老澤聡一郎、岡田 綾子、桑原宏一郎
(長野県立こども病院循環器小児科) 瀧間 浄宏
(長野県立こども病院心臓血管外科) 小沼 武司
(信州大学医学部附属病院心臓血管外科) 瀬戸達一郎

I-7 下肢深部静脈血栓と肺塞栓に対する抗凝固療法下にPFOを介して脳梗塞、心筋梗塞にまで至った一例
(虎の門病院循環器センター内科) 西條 朝貴
高橋 怜、藤原 秀臣、大森 奈美、森瀬 昌裕、
伊東 秀崇、小宮山知夏、播磨 綾子、桑原 政成、
太田 光彦、山口 徹雄、西山 信大、藤本 陽、
児玉 隆秀
(昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 福岡 裕人、小崎 遼太、新家 俊郎

I-8 病勢初期に大動脈弁閉鎖不全症の急速な進行を認め、集学的治療を要したパーチェット病の一例
(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 羽山 綾華
長谷川祐紀、内藤 大智、和田 理澄、秋山 琢洋、
石塚 光夫、藤木 伸也、高山 亜美、柏村 健、
猪又 孝元
(新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸循環外科学分野) 羽山 響、榎本 貴士、三島 健人
(新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科) 里方 一紀、小林 大介

I-9 たこつぼ型心筋症に伴う心原性ショックに対して補助循環用ポンプカテーテルが有効であった一例
(横浜市立みなと赤十字病院) 川地 祐輔
齋藤 一平、西尾 祥郎、松岡 勇樹、安井 由美、
河本 梓帆、小田 惇仁、大方信一郎、新井 紘史、
村田 和也、佐川雄一郎、浅野 充寿、志村 吏左、
有馬 秀紀、倉林 学、山内 康熙

I-10 心房細動に対するカテーテルアブレーション後、遅発性難治性冠攣縮性狭心症を発症しECPELLA管理を要した1例

(亀田総合病院循環器内科)

三石 一成
竹川 弘毅、水上 暁、中村 瑠美、松田 恵実、
柴田 瑛帆、野田 誠之、吉山 慶太、篠崎 智哉、
益城 惇、中田 亮、川上 拓也、廣木 次郎、
大谷 拓史、大野 真紀、植島 大輔、松村 昭彦
吉岡 賢二

(安房地域医療センター循環器内科)

第Ⅱ会場

一般演題 セッション1 虚血性心疾患1

9:00-9:40

座長 (上尾中央総合病院心臓血管センター循環器内科) 緒方 信彦

座長 (横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 花島 陽平

コメンテーター (湘南鎌倉総合病院循環器科) 飛田 一樹

II-1 責任病変へのPCI後に冠動脈バイパス術と外科的僧帽弁置換術を追加施行することで救命し得たSTEMIの一例

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科)

裴 賢哲

羽鳥 将史、坂倉 建一、陣内 博行、谷口 陽介、

山本 慶、世沢 文音、青田 宏人、明石 直之、

牧 尚孝、藤田 英雄

II-2 ステント内血栓に対してパーフュージョンバルーンとIABPが有効であった高齢女性STEMIの1例

(横須賀市立うわまち病院)

山口 貴宣

荒木 浩、圓谷 紘乃、羽柴 克孝、泊口 哲也、

黒木 茂、岩澤 孝昌、沼田 裕一

II-3 多量血栓のためPrimary PCI不成功であった急性心筋梗塞に対して血栓溶解療法が著効した一例

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科)

佐藤 恒

山本 慶、陣内 博行、坂倉 建一、羽鳥 将史、

谷口 陽介、藤田 英雄

II-4 左冠動脈主幹部梗塞を合併したA型大動脈解離にstent留置および全弓部大動脈置換術施行で救命した1例

(千葉徳洲会病院循環器内科)

角南 佑季

古賀 敬史、安田 幸一、上田 修、池田 佳広

(東京ベイ・浦安市川医療センター心臓血管外科)

伊藤 丈二

II-5 ROSC後にST上昇を伴わず高感度トロポニンIも陰性であったが左主管部を含む重症多枝病変が判明した一例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科)

渡邊 宏哉

安齋 均、根本 尚彦、武中 宏樹、矢口 知征、

鮫島 雄祐

一般演題 セッション2 デバイス/モニタリング

9:40-10:30

座長 (東京女子医科大学循環器内科) 柳下 大悟

座長 (横浜南共済病院循環器内科) 立石 遼

コメンテーター (北里大学循環器内科) 深谷 英平

II-6 三尖弁置換術後の徐脈性心房細動に対してリードレスペースメーカーを留置した一例

(東京西徳洲会病院循環器科)

阿多 智之

田中 源八、平光 一貴、橋富 裕、堂前 洋

II-7 左脚ブロックを伴う低心機能例に対し左脚領域ペーシングにより左室駆出率・心不全の著明な改善を認めた一例

(国際医療福祉大学病院)

山田 秀悟

(国際医療福祉大学病院循環器内科)

福田 浩二、武田 守彦、池田 尚平、平野 道基、

篠崎真莉子、三木 景太、佐藤 公一

II-8 胸骨圧迫に伴うペースメーカーリード右室穿孔の一例
(東京都済生会中央病院循環器内科) 亀山 翔平
市原裕美子、伊崎慶史郎、増田 光祐、大平 麻貴、
藤井 佑樹、遠藤 彩佳、平田 直己、鈴木 健之、
長谷川 祐、高橋寿由樹

II-9 リード追加困難な上大静脈の狭窄に対してSelect Secureリード™が有用であった一例
(昭和大学藤が丘病院) 大村 歩
小貫 龍也、杉山 拓士、間瀬 浩、鈴木 洋

II-10 低心機能患者への致死性不整脈一次予防のオプション：着用型か植え込み型か
(日本大学医学部附属板橋病院臨床研修センター) 野崎 秀偉
(日本大学医学部循環器内科) 盛川 智之、若松 雄治、遠山 一人、池谷 之利、
奥村 恭男

II-11 シート型体振動計の測定データを用いた心不全増悪の早期検知アルゴリズムの開発
(パラマウントベッド株式会社睡眠研究所/順天堂大学大学院医学研究科循環器遠隔管理学講座) 豊田 彩織
木暮 貴政
(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学) 須田 翔子、栗田 梓、山口有里那
(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学大学院医学研究科循環器遠隔管理学講座) 葛西 隆敏
(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学大学院医学研究科心血管睡眠呼吸医学講座) 内藤 亮
(順天堂大学医学部附属順天堂静岡病院循環器内科) 設楽 準
(ゆみのハートクリニック) 本間 美穂、弓野 大

教育セッションⅢ

10:40-12:10

座長 (筑波大学医学医療系循環器内科) 石津 智子
座長 (東海大学医学部付属八王子病院臨床検査学) 村田 光繁

心エコー図法の進歩

実臨床でのストレイン計測

(慶應義塾大学病院臨床検査医学) 鶴田ひかる

SHD診療心エコー図の最前線

(聖マリアンナ医科大学循環器内科) 出雲 昌樹

心不全診療における心エコー図：ERから外来フォローまで

(横浜市立大学循環器内科) 岩橋 徳明

ランチョンセミナー2

12:20-13:10

共催：ノバルティスファーマ株式会社/大塚製薬株式会社
座長 (千葉大学大学院医学研究院循環器内科学) 小林 欣夫

StageAから始まる心不全診療 -エンレストへの期待-

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊苺 裕二

教育セッションⅣ

13:20-14:50

座長 (三井記念病院循環器内科) 田邊 健吾
座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 大野 洋平

機能的房室弁逆流を深掘りする

ガイドラインから読み解く機能的MR/TRの最適治療

(筑波大学医学医療系循環器内科・臨床検査医学) 町野 智子

マルチモダリティイメージングで迫るMR/TRの包括的評価

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科)

橋本 剛
池田 長生、中村啓二郎、飯島 雷輔、原 英彦

機能性MR/TRに対する外科治療戦略

(順天堂大学心臓血管外科)

田端 実

機能性房室弁逆流に対するカテーテル治療戦略の現在と未来

(東海大学医学部内科学系循環器内科学)

上岡 智彦

デザートセミナー2

15:00-15:50

共催：ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 吉岡公一郎

『変わりゆく心房細動の治療戦略 ～抗凝固療法からパルスフィールドアブレーションまで～』

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

林 英守

Student Award

16:00-16:50

座長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 明石 嘉浩

座長 (自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 藤田 英雄

審査委員長 (東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一

審査委員 (日本医科大学武蔵小杉病院総合診療科) 塚田 (哲翁) 弥生

審査委員 (昭和大学江東豊洲病院循環器内科) 丹野 郁

審査委員 (山梨大学医学部附属病院循環器内科) 佐藤 明

II-12 術前陽圧換気療法を行い、接合不全が改善した心室性機能性僧帽弁逆流症を伴うHFrEF患者の1例

(順天堂大学医学部)

神倉 莉乃

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座)

加藤 隆生、櫻村 夏美、砂山 勉、金子 智洋、
古賀 聖士、土肥 智貴、林 英守、南野 徹

II-13 神経線維腫症1型に合併した急性冠症候群の1例

(杏林大学医学部)

細田 善弘

(杏林大学循環器内科)

合田あゆみ、泉 圭一、永松 佑基、三浦 佑介、
毛利 崇人、福士 圭、小山 幸平、河野 隆志、
副島 京子

II-14 診断に苦慮した完全右脚ブロックを呈するBrugada症候群の1例

(獨協医科大学医学部)

原田 隼

(獨協医科大学心臓血管内科・循環器内科)

南 健太郎、井上 弘貴、前野 栄考、飯田圭太生、
斎藤 郁太、増山 大樹、北川 善之、中島 敏明、
有川 拓男、豊田 茂

(那須赤十字病院循環器内科)

景山 倫也

II-15 左室内血栓/腎梗塞を合併し、血栓性素因として抗リン脂質抗体症候群が示唆された特発性冠動脈解離の一例

(千葉大学医学部循環器内科)

藤田 美優

田邊 裕也、加藤 央隼、加藤 賢、小林 欣夫

- II-16 Dual energy CTにおける実効原子番号画像上のmosaic patternを用いた心臓肉腫、粘液腫との鑑別
 (国際医療福祉大学医学部医学科) 富田 徳篤
 (千葉西総合病院放射線部) 宿谷 篤
 (千葉西総合病院循環器内科) 三角 和雄
 (千葉西総合病院心血管外科) 中山 泰介
 (千葉西総合病院病理部) 鈴木 正章、柳原 希美
 (国際医療福祉大学医学部循環器内科) 河村 朗夫
 (国際医療福祉大学市川病院循環器内科) 船橋 伸禎

Resident Award

17:00-17:50

- 座長 (日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野) 清水 渉
 座長 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙
 審査委員長 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 木庭 新治
 審査委員 (信州大学医学部循環器内科) 桑原宏一郎
 審査委員 (新潟大学医学部保健学科) 池主 雅臣
 審査委員 (東海大学医学部付属八王子病院心臓血管外科) 桑木 賢次

- II-17 Stanford A型大動脈解離術後の残存解離による後負荷で進行性の左室収縮能低下を認めた一例
 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 後藤 尚志
 中村 則人、北澤 拓治、鈴木 大樹、吉川万里江、
 塩崎 学、上岡 智彦、伊地知 健、大野 洋平、
 永井 知雄、網野 真理、吉岡公一郎、伊苺 裕二

- II-18 心嚢ドレナージ直後に心原性ショックを呈した心膜減圧症候群に対してVA-ECMOで救命しえた一例
 (自治医科大学循環器内科学部門) 中嶋 雄大
 小古山由佳子、藤村 研太、篠原 肇、
 齋藤 俊祐、清水 勇人、原田 顕治、苺尾 七臣

- II-19 急性心不全発症を契機に判明した家族性僧帽弁逸脱症症例の検討
 (日本大学病院循環器内科) 町田 宗将
 門傳 昌樹、井上 健一、瀬戸口俊貴、野牛 聖那、
 渡辺 洋司、榎田 綾乃、磯 一貴、八木 司、
 鈴木 康之、鷲尾 武彦、松本 真明、横山 勝章、
 深町 大介、松本 直也
 (日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男
 (日本大学病院心臓血管外科) 田岡 誠
 (日本大学医学部外科学系心臓血管外科学分野) 田中 正史

- II-20 ペースメーカーリードに付着する腫瘤を呈したために診断に至った、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の一例
 (東京医科歯科大学循環器内科) 朱田 卓史
 山本 佑、根岸 美帆、池ノ内 孝、河村 岩成、
 後藤健太郎、西村 卓郎、高宮 智正、田尾 進、
 滝川 正晃、宮崎 晋介、笹野 哲郎
 (東京医科歯科大学心臓血管外科) 櫻井 啓暢、長岡 英気、藤田 知之

- II-21 経過中にAsystoleに至ったが、ECPELLA及び免疫抑制療法で自宅退院可能となった劇症型心筋炎の一例
 (SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科) 大山 昇悟
 北野 奨真、横森 広樹、齊藤 翔太、鮫島 雄祐、
 矢口 知征、武中 宏樹、根本 尚彦、安齋 均

第Ⅲ会場

一般演題 セッション3 弁膜症1

9:00-9:40

座長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 栗田 真吾

座長 (湘南藤沢徳洲会病院循環器内科) 九鬼有克子

コメンテーター (慶應義塾大学医学部循環器内科) 林田健太郎

Ⅲ-1 経カテーテルの大動脈弁植込み術後の弁周囲逆流による機械的溶血に大動脈弁バルーン拡張術が著効した一例

(信州大学医学部附属病院循環器内科)

伊藤 黄
春原 大輔、大熊ゆかり、能見 英智、神崎 佑介、
柏木 大輔、吉江 幸司、三枝 達也、
海老澤聡一朗、岡田 綾子、元木 博彦、
桑原宏一郎
瀬戸達一郎

(信州大学医学部附属病院心臓血管外科)

Ⅲ-2 大腿骨骨折観血的手術に先行して二期的に経カテーテル的治療を行った超高齢者超重症大動脈弁狭窄症の1例

(信州大学医学部附属病院循環器内科)

依田 望
寺岡 奈美、鈴木 翔、春原 大輔、大熊ゆかり、
能見 英智、神崎 佑介、木村 和広、植木 康志、
南澤 匡俊、吉江 幸司、小口 泰尚、加藤 太門、
三枝 達也、海老澤聡一朗、岡田 綾子、
元木 博彦、桑原宏一郎

Ⅲ-3 CRT-D植込み後も心機能改善を認めない左脚ブロック、ASR背景のHFREFにTAVIを施行した一例

(平塚共済病院循環器内科)

新井 亮太
大西 祐子、柏 良之輔、宮崎 紘子、羽生 佳弘、
飯谷 宗弘、荒木 恵子、秋吉 基光、岩井 慎介、
村本 容崇、小林 一士
笹野 哲郎

(東京医科歯科大学循環制御内科学)

Ⅲ-4 低・中リスク群の大動脈弁狭窄症におけるTAVIとSAVRの比較：RCTのメタ解析

(筑波大学附属病院初期研修医1年)

(東京大学腎臓・内分泌内科)

(Division of Cardiothoracic Surgery, Westchester Medical Center)

(Division of Cardiology, Emory University School of Medicine)

(Department of Cardiothoracic Surgery, University of Michigan)

(Division of Cardiothoracic Surgery, Washington University School of Medicine)

(静岡医療センター心臓血管外科)

(Department of Cardiology, Montefiore Medical Center)

霜田 智成
宮本 佳尚
島村 淳一
上山 紘生
横山裕次郎、福原 進一
金子 剛士
高木 寿人
工野 俊樹

Ⅲ-5 大動脈弁置換術を施行し、原因不明の貧血が改善した一例

(イムス東京葛飾総合病院循環器内科)

水戸川泰士
小松 宏貴、今峰衣理香、日置 紘文、進藤 一紘、
白濱 尚治、仲村 佳典、朴沢 英成
鈴木 魁哉、小林 勇哉、山岸 俊介、吉田 成彦

(イムス東京葛飾総合病院心臓血管外科)

一般演題 セッション4 外科的治療

9:40-10:30

座長 (東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科) 志村信一郎

座長 (虎の門病院循環器センター外科) 中永 寛

コメンテーター (埼玉病院心臓血管外科) 配島 功成

Ⅲ-6 悪性腫瘍を背景とした非細菌性血栓性心内膜炎 (NBTE) に対してロボット支援下僧帽弁形成術を施行した1例

(聖路加国際病院心臓血管外科)

中村 亮太

阿部 恒平、西田 秀史、玉木 理仁、中村 雄一

Ⅲ-7 感染性心内膜炎多発血栓、クモ膜下出血の合併に、僧帽弁形成術と脳動脈瘤クリッピングを同時に施行した1例

(東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野)

三舟 大和

天野 英夫、小原 浩、小島 至正、佐野 雄英、

池田 隆徳

(東邦大学医学部脳神経外科学講座)

近藤 康介

(東邦大学医学部外科学講座循環器外科学分野)

藤井 毅郎

Ⅲ-8 B群連鎖球菌による感染性心内膜炎に対して保存的加療中に僧帽弁穿孔をきたし緊急僧帽弁置換術を実施した1例

(済生会川口総合病院循環器内科)

大久保竣介

渡邊正之介、芹川 直輝、長柄希実子、田中 一樹、

門脇 拓、中尾 優、高木 厚

Ⅲ-9 右房内へ浸潤した巨大胸腺腫に対して準緊急手術を行い救命しえた一例

(杏林大学医学部付属病院循環器内科)

西山 敬文

池脇 宏嗣、秋葉 隆介、毛利 崇人、西 智子、

野々口紀子、南島 俊徳、合田あゆみ、河野 隆志、

副島 京子

(杏林大学医学部付属病院心臓血管外科)

峯岸 祥人、窪田 博

(杏林大学医学部付属病院病院病理部)

藤原 正親、柴原 純二

Ⅲ-10 胸腹部大動脈狭窄症を有し治療に難渋した心不全増悪の一例

(東京都健康長寿医療センター循環器内科)

宮内 祐弥

十菱 千尋、二見崇太郎、小松 俊介、碓井 伸一、

藤本 肇、石川 譲治、原田 和昌

(東京都健康長寿医療センター心臓血管外科)

眞野 暁子、乾 明敏、河田 光弘、村田 知洋

(東京都健康長寿医療センター血管外科)

牧野 能久、松倉 満

Ⅲ-11 急性下肢動脈閉塞を伴った急性A型大動脈解離に対して緊急手術を行い患肢温存が可能であった1症例

(東京慈恵会医科大学心臓外科)

東 敬介

高木 智充、儀武 路雄、松村 洋高、前田 恵、

有村 聡士、辻本 貴紀、石割 圭一、國原 孝

学術委員会企画セッション

10:40-12:10

座長 (医療法人社団みやび)

渡邊 雅貴

座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科)

岩花 東吾

心不全の支持療法～再入院を防ぐためにかかりつけ医ができること～

心不全患者の睡眠と睡眠障害

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

葛西 隆敏

心不全に対する心臓リハビリテーション

(東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、循環器内科) 田屋 雅信

心不全患者における栄養サポートの重要性

(東京医科大学病院栄養管理科) 宮澤 靖

地域で診る心不全の在宅での薬剤管理と服薬支援 ～訪問薬局薬剤師の立場から～

(株式会社龍生堂本店クスリの龍生堂薬局在宅支援課) 関下 禪美

ランチョンセミナー3

12:20-13:10

共催：日本光電工業株式会社

座長 (AOI国際病院循環器内科)

平尾 見三

塞栓源不明脳梗塞における潜在性心房細動の検出とマネジメント

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 柳下 敦彦

(東海大学医学部内科学系脳神経内科) 中山 平

第19回ダイバーシティ・フォーラム／第5回 U-40 部会企画セッション

13:20-14:50

座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 齋藤 佑一

座長 (湘南藤沢徳洲会病院循環器内科) 九鬼有克子

「若手循環器医の5つのストーリー ver 3.0：若手として、そして先輩として」

慶應義塾大学循環器内科における医局員教育及び勧誘の取り組み

(慶應義塾大学病院循環器内科) 品田慶太郎

自治医科大学循環器内科の取り組み ～若手医師の勧誘、医局員の教育とキャリア形成、働き方改革～

(自治医科大学附属病院循環器内科) 佐藤 雅史

新潟大学循環器内科医局の現状、若手勧誘の取り組み、働き方改革について

(新潟大学医歯学総合病院循環器内科) 長谷川祐紀

未来を描こう！自分達のキャリアデザイン

—海外留学、また男女協働の実践と課題— 北里大学循環器内科の取り組み

(北里大学医学部循環器内科学) 亀田 良

私の生きる道 —日本医科大学循環器内科医局員として、心研レジデントとして—

(心臓血管研究所附属病院循環器内科) 星加 優

デザートセミナー3

15:00-15:50

共催：エドワーズライフサイエンス合同会社

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 林田健太郎

TAVIが本邦に導入されて10年～広がるAS治療の選択肢～

「AS患者の早期発見・適切なタイミングでの紹介・治療の重要性～我々の工夫～」

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 宮本 淳一

「First-in man TAVIから20年、フランスの現状は！？～ストラスブール長期留学で見たもの～」

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 松下 絢介

一般演題 セッション5 心筋症

16:00-17:05

座長 (日本医科大学医学部附属病院・三越診療所循環器内科) 加藤 倫子

座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 大門 道子

コメンテーター (群馬大学医学部附属病院循環器内科) 小板橋紀通

Ⅲ-12 心房細動に対するカテーテルアブレーション後にたこつぼ心筋症を発症した一例

(北里大学医学部循環器内科学) 中原 翔平

小林 周平、村松 裕介、深谷 英平、阿古 潤也

Ⅲ-13 COVID-19を併発したたこつぼ型心筋症の回復期に全身塞栓症を来した一例

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 鈴木 大樹

田中 重光、宮本 淳一、中村 則人、上岡 智彦、

村上 力、鳥居 翔、伊地知 健、大野 洋平、

伊苺 裕二

Ⅲ-14 心臓サルコイドーシスに続発する完全房室ブロックにステロイドパルス療法が有効であった一例

(聖隷横浜病院心臓血管センター内科) 笠間 武瑠

長谷川和喜、仙波 貴之、河合 慧、中島 啓介、

新村 剛透、芦田 和博

Ⅲ-15 Smoldering multiple myelomaが合併し慎重に診断と治療を行った高齢男性の心アミロイドーシスの一例

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 関川洋太郎

永井 知雄、吉川万里江、伊地知 健、大野 洋平、

吉岡公一郎、伊苺 裕二

Ⅲ-16 新規左脚ブロックに対し血行再建を行ったが、病理解剖で心アミロイドーシスと診断された一例

(日産厚生会玉川病院循環器内科) 吉満 優希

和賀 早理、小泉 貴洋、若林 隼人、平野 庸介、

小野 剛、相川 丞

Ⅲ-17 異なる経過をたどった免疫チェックポイント阻害薬関連心筋障害疑い2例の検討

(自治医科大学循環器内科) 菅又 瑞生

小林 久也、上岡 正志、齋藤 俊祐、青山 泰、

加倉井俊也、横田 彩子、原田 顕治、苺尾 七臣

(自治医科大学循環器内科/自治医科大学臨床薬理学部門)

(国立循環器病研究センター病理部)

(自治医科大学附属病院病理診断部)

澤城 大悟
雨宮 妃
樺澤 森

Ⅲ-18 急性心外膜炎を合併したサルモネラ腸炎・敗血症性心筋症の1例

(横浜南共済病院研修医) 江口 里咲

(横浜南共済病院循環器内科)

清水 雅人、角田 貴大、酒井 瑛子、清水 厚哉、

三須 彬生、立石 遼、山口 正男、加藤 信孝、

島田 博史、一色 亜美、鈴木 秀俊、藤井 洋之、

鈴木 誠

(横浜南共済病院消化器内科)

(東京医科歯科大学医学部循環器内科)

中野間 紘、近藤 正晃
笹野 哲郎

Ⅲ-19 失神を契機に診断し得た不整脈源性心筋症の一例

(日本医科大学付属病院循環器内科)

大坪啓一郎

松田 純也、土井田裕子、小山賢太郎、伊藤 伸晃、

新井 俊貴、岩崎 雄樹、浅井 邦也

第IV会場

一般演題 セッション6 肺高血圧

9:00-9:40

座長 (国際医療福祉大学医学部循環器内科学) 田村 雄一

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 平出 貴裕

コメンテーター (横浜市立大学医学部循環器内科学講座) 小村 直弘

IV-1 肺高血圧・右心不全の合併に対しプロスタグランジン_{I₂}受容体作動薬が有効だった慢性閉塞性肺疾患の1例
(日本鋼管病院循環器内科) 斎藤 丈

上原 柁洋、細川 哲、李 慧玲、酒井 哲郎

IV-2 卵円孔開存を介した奇異性脳塞栓症を発症した慢性血栓閉塞性肺高血圧症に対してカテーテル治療を行った一例

(東京医科大学病院循環器内科) 小松崎友樹夫

笠原 智大、山下 淳、松尾 礼、小松 一貴、
武井 康悦、里見 和浩

IV-3 特発性肺動脈性肺高血圧症に対してPGI₂製剤投与中に発見された汎下垂体機能低下症の一例
(国際医療福祉大学三田病院心血管センター)

山田祈乃里
磯部 更紗、田村 祐大、岩澤 仁、木村 茂樹、
大門 雅夫、合屋 雅彦、田村 雄一

IV-4 肺動脈吸血細胞診が早期診断に繋がった肺動脈腫瘍塞栓症の一例
(松戸市立総合医療センター循環器内科)

高中 春香
福島 賢一、宮原 友輝、堀 泰彦、高橋 秀尚

IV-5 慢性血栓塞栓性肺高血圧症で通院中に顕微鏡的多発血管炎の診断に至った1例
(公立館林厚生病院内科)

真木 芽以
遠藤 路子、藤井 孝成、神崎 綱、新木 義弘、
齋藤 章宏、清水 岳久、新井 昌史

一般演題 セッション7 心不全/他

9:40-10:30

座長 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 江波戸美緒

座長 (東京女子医科大学先端生命医科学研究所/循環器内科) 高田 卓磨

コメンテーター (自治医科大学公衆衛生学兼循環器内科) 桑原 政成

IV-6 巨大左房による圧排から食道通過障害を来した1例
(山梨病院)

出山順太郎
菅又 渉、猪野 友里、石原 司

IV-7 HFrEFにおけるイバブラジン導入による左室収縮能や運動耐容能への効果
(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座)

関根 智子
加藤 隆生、松本 紘毅、栗田 梓、須田 翔子、
林 英守、南野 徹

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座/順天堂大学大学院医学研究科心血管睡眠呼吸医学講座)

内藤 亮、葛西 隆敏

IV-8 アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬により完全左脚ブロックの早期回復を認めた拡張型心筋症の一例

(東海大学医学部内科学系循環器内科学)

神宮紘太郎
柳下 敦彦、北澤 拓治、飯村 和真、李 勳熙、
坂間 晋、網野 真理、伊苺 裕二、吉岡公一郎

IV-9 人種/民族・地域ごとの各SGLT2阻害薬の効果の比較:メタ解析
(亀田総合病院卒後研修センター) 可児 涼真
(東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科) 宮本 佳尚
(Department of Medicine, Icahn School of Medicine at Mount Sinai, Mount Sinai Beth Israel)
(順天堂大学医学部附属病院循環器内科) 渡邊 淳之
(Division of Cardiology, Jacobi Medical Center, Albert Einstein College of Medicine) 相川 忠夫
工野 俊樹

IV-10 わが国の循環器病患者における「デジタルヘルス準備状況」
(聖マリアンナ医科大学医学部) 仁科 英彬
藏本虎之介
(聖マリアンナ医科大学医学部循環器内科) 貝原 俊樹、明石 嘉浩

IV-11 画像問題を含む循環器内科専門医試験におけるGPTの性能評価
(東京大学医学部附属病院循環器内科) 久保祐太郎
小寺 聡、佐藤 将敬、岸川 理沙、澤野晋之介、
篠原 宏樹、石田 純一、藤生 克仁、武田 憲文、
赤澤 宏、武田 憲彦

会長企画セッションⅡ
10:40-12:10

座長 (東京慈恵会医科大学循環器内科) 山根 禎一
座長 (国際医療福祉大学三田病院循環器内科) 合屋 雅彦

心房細動治療の基本

心房細動治療に必要な心房およびその周囲の解剖と3Dマッピングの活用法
(東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野) 藤野 紀之

心房細動におけるカテーテルアブレーションの適応を考える
(横浜市立みなと赤十字病院循環器内科) 山内 康照

心房細動における抗凝固療法の適応を考える: catch-up & deep-in guidelines
(心臓血管研究所研究本部) 鈴木 信也

心房細動を合併した心不全患者に対する薬物治療とデバイス治療
(日本医科大学付属病院循環器内科) 淀川 顕司

ランチョンセミナー4

12:20-13:10

共催: MSD株式会社

座長 (横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 菅野 晃靖

「肺塞栓・DVTを診たあとに潜む診療ピットフォール」

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 池田 長生

生物統計セミナー

13:20-14:20

座長 (東京医科歯科大学循環制御内科学) 笹野 哲郎

座長 (日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男

医療統計および医療経済に関する基礎知識を学ぼう

医療統計と医療経済の基礎知識: 医療の費用対効果を考える

(東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学) 康永 秀生

一般演題 セッション8 心膜炎/腫瘍疾患

14:30-15:20

座長 (がん研有明病院腫瘍循環器・循環器内科) 志賀 太郎

座長 (防衛医科大学校病院循環器内科) 安田理紗子

コメンテーター (国立がん研究センター東病院循環器科) 田尻 和子

IV-12 風疹による急性心膜心筋炎と心タンポナーデの1例

(高崎総合医療センター)

石橋 洋平

野尻 義人、瀬田 博貴、高橋 洋右、千吉良彩花、

柴田 悟、羽鳥 直樹、高橋 伸弥、村田 智行、

小林 紘生、太田 昌樹、福田 延昭、広井 知歳

IV-13 SGLT2阻害薬の反応性が異なった収縮性心膜炎の2例

(防衛医科大学校病院診療部循環器内科)

大堀 正則

廣田 彰子、赤井 駿、竹藤亜紗子、安田理紗子、

池上 幸憲、東谷 卓美、眞崎 暢之、長友 祐司、

足立 健

IV-14 MIDCAB術後半年で収縮性心膜炎を発症し再手術を要した一例

(東京蒲田病院)

不破 貴史

奥木 聡志、山岸 正、岡田 隆、小山 豊、

井上 直人

IV-15 腎盂癌の心室転移部を起源とするPVCによりTdPを頻回に起こした一例

(墨東病院初期研修医/墨東病院循環器科)

小菅 千晴

(墨東病院循環器科)

大竹 正紘、齊田 冠斗、石塚 祐紀、長谷川皓紀、

須藤 篤史、伊藤実希子、長塩 憲司、青山 拓令、

平野 仁士、大橋 浩一、高山 陽、市原 登、

黒木 識敬、安倍 大輔

IV-16 右房内進展により失神をきたした静脈内平滑筋腫症の一例

(済生会横浜市東部病院初期臨床研修医)

島津慶一郎

(済生会横浜市東部病院循環器内科)

伊藤 良明、藤井陽太郎、谷中 夏海、村井 篤弥、

瀬戸長雄介、香西 裕樹、深川 知哉、岸田登志彦、

山口 航平、水澤 真文、白井 重光、本多 洋介、

堤 正和、毛利 晋輔、小林 範弘、山脇 理弘

IV-17 肺塞栓症を合併した右房内腫瘍を血管内視鏡観察下で生検し診断できた1例

(筑波大学附属病院循環器内科)

谷田部博貴

矢口 拓実、宇佐美恭平、寺内 泰観、石井雄一郎、

一戸 貴子、平谷 太吾、渡部 浩明

(筑波大学医学医療系循環器内科)

星 智也、石津 智子

日本循環器学会関東甲信越地方会と日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部の合同シンポジウム

15:30-17:00

座長 (川口きゅうほりリハビリテーション病院リハビリテーション科) 牧田 茂

座長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

スポーツ医学と心臓リハビリの融合

心不全の骨格筋と運動療法

(群馬県立心臓血管センター循環器内科)

安達 仁

心疾患を有するスポーツ選手が競技を継続することは可能か

(順天堂大学循環器内科/JリーグいわきFC)

福島 理文

運動と食事、適切な栄養補給のタイミングとは？

(聖マリアンナ医科大学薬理学) 木田 圭亮

「運動を継続させるには、どうすればよいか」

(心臓血管研究所循環器内科) 加藤 祐子

第V会場

一般演題 セッション9 冠循環・肺循環/他

9:00-9:40

座長 (池上総合病院循環器内科) 棗田 誠
座長 (獨協医科大学日光医療センター心臓・血管・腎臓内科) 杉山 拓史
コメンテーター (東京新宿メディカルセンター循環器内科) 谷地 織

V-1 カテーテルの肺静脈隔離術後に診断が遅延し重症多枝肺静脈閉塞に陥った1例

(昭和大学江東豊洲病院臨床研修医) 木内 啓太
(昭和大学江東豊洲病院循環器センター循環器内科) 相澤 直樹、佐藤 千聡、浅川 将輝、石永 智之、
柴田 恵多、古屋 貴宏、西蔵 天人、池田 尚子、
若林 公平、丹野 郁

V-2 家族内発症が疑われるプロテインC欠損症による肺血栓塞栓症の親子症例

(松戸市立総合医療センター循環器内科) 宮原 友輝
福島 賢一

V-3 著明な右冠動脈拡張を伴う右冠動脈右室瘻の一例

(公立昭和病院循環器内科) 村上 貴彦
鴨井 祥郎、石原有希子、大森 康歳、朝田 一生、
松永 紘、岡田 健助、田中 茂博

V-4 経胸壁バブルテストにて卵円孔開存症と診断したが下大静脈rim欠損の心房中隔欠損症であった一例

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 野田 賢史
村上 力、宮本 淳一、堀之内仁美、上岡 智彦、
大野 洋平、伊苺 裕二

V-5 自由診療受診を一因とする薬剤性高K血症をきたした1例

(新百合ヶ丘総合病院循環器内科) 清川 篤
櫻井 馨、中島 聡良、河俣 僚太、田仲 明史、
秋元 耕、前野 遼太、福島 琢、高橋 良英、
畔上 幸司

一般演題 セッション10 虚血性心疾患2

9:40-10:20

座長 (湘南大磯病院循環器内科) 増田 尚己
座長 (三郷中央総合病院循環器内科) 永井 泰斗
コメンテーター (長野中央病院循環器内科) 板本智恵子

V-6 重症虚血性心筋症に対してShockwave®による治療を行い良好な転機を得た一例

(武蔵野赤十字病院) 小田中勇樹
小井土文香、内藤 倫人、松田 和樹、左山 耕大、
加地 大悟、照井 麻央、堀江 知樹、大方信一郎、
長瀬 将、埜本 優太、三澤 透、宮崎 亮一、
金子 雅一、李 哲民、永田 恭敏、野里 寿史、
足利 貴志

V-7 亜急性前壁心筋梗塞に合併した心室中隔穿孔の2症例について

(JAとりで総合医療センター循環器内科) 村上 理子
鈴木 雅仁、服部英二郎、山本 貴信、栗根 隆介、
林 恭二、金田 俊雄

V-8 経皮的冠動脈インターベンションから5年以上経過した第2・3世代薬剤溶出ステントにおける再狭窄予測因子

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 大西 光
鳥居 翔、中村 則人、塩崎 学、相原 一樹、
大村 遼資、土屋 亮、伊苺 裕二

V-9 冠攣縮性狭心症により心肺停止(PEA)となり、Bystander CPRにて心拍再開を得た一例

(JA長野厚生連北信総合病院循環器内科) 井出 翔吾
宮尾 陽平、中澤 峻、清水 貴裕、櫻井 俊平
(JA長野厚生連北信総合病院不整脈診療科) 金城 恒道
(信州大学医学部附属病院循環器内科学教室) 桑原宏一郎

V-10 過換気により誘発された冠攣縮で心室細動を生じた若年男性の1例

(上尾中央総合病院循環器内科) 瀧本 翔太
増田新一郎、小橋 啓一、松岡佳和璃、宮崎 至、
林 健太郎、谷本 周三、増田 尚己、緒方 信彦、
一色 高明

一般演題 セッション11 心筋炎

10:30-11:20

座長 (東京慈恵会医科大学内科学講座循環器内科) 名越 智古
座長 (東邦大学医療センター佐倉病院心臓血管外科) 田中 千陽
コメンテーター (東京大学医学部附属病院循環器内科) 網谷 英介

V-11 治療に難渋した巨細胞性心筋炎に対し、シクロスポリンを使用した一例

(東京慈恵会医科大学附属第三病院循環器内科) 伊野 琳子
王 琢矢、滝澤 優果、三田 光慶、吉田 律、
香山 洋介、宮永 哲、芝田 貴裕
(東京慈恵会医科大学附属病院内科学講座循環器内科) 吉村 道博

V-12 免疫抑制剤の使用により安定したウイルス性心筋炎の症例

(関東労災病院循環器内科) 山岸 聡美
渡邊 則和、井村 康平、大星 麻衣、吉竹功央一、
野村 康介、柴田 正行、並木 淳郎

V-13 COVID-19関連劇症型心筋炎に対して集学的治療を行い救命しえた1例

(墨東病院循環器科) 丸野 桃子
石塚 祐紀、齊田 冠斗、須藤 篤史、長谷川皓紀、
大竹 正紘、伊藤実希子、長塩 憲司、青山 拓令、
平野 仁人、大橋 浩一、高山 陽、市原 登、
黒木 識敬、安倍 大輔

V-14 VA-ECMOとIMPELLAの併用で救命し得た劇症型心筋炎の1例

(済生会宇都宮病院循環器内科) 杉本 遼太
八島 史明、野間 重孝、下地顕一郎、横田 裕之、
森 健支、西田 裕明、古瀬 領人、岩堀 浩也、
三角 香世、吉島 信宏、松村 英斉、佐藤 允俊

V-15 病理組織学的な治癒改善過程を経時的に追跡できた好酸球性心筋炎の一例
 (日本医科大学付属病院循環器内科) 平山 浩章
 浅井 邦也
 (日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 齋藤 恒徳、寺門 誠雄、川村 崇、橋 貴大、
 菅原 一樹、笹本 希、中野 博之、清水 渉、
 小谷英太郎

V-16 肝細胞癌に対してデュルバルマブ/トレメリマブを投与後に劇症型心筋炎を発症した2例
 (君津中央病院循環器内科) 金山 琢磨
 渡邊 悠斗、松野 正直、山浦 貴士、寺林 郁人、
 葛 備、高原 正幸、石村 昌之、兵働 裕介、
 田中 秀造、外池 範正、芳生 旭志、山本 雅史

一般演題 セッション12 弁膜症2/外科治療
 11:30-12:10

座長 (東京大学医学部附属病院心臓外科) 山内 治雄
 座長 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科) 高橋 徳仁
 コメンテーター (横浜市立市民病院心臓血管外科) 浦中 康子

V-17 MitraClipによりカテコラミンから離脱可能となった弁離開を伴う二次性僧帽弁閉鎖不全症の一例
 (新潟市民病院循環器内科) 須田 悠太
 尾崎 和幸、田中 孔明、米山晋太郎、岡村 俊孝、
 大窪 愛香、内田 純也、小柳 宣人、柏 麻美、
 保坂 幸男、高橋 和義
 (湘南鎌倉総合病院循環器内科) 松本 崇

V-18 僧帽弁形成術後
 (ニューハート・ワタナベ国際病院) 芝山納恵瑠
 黒岩 信行、今村 泰崇、渡邊 剛

V-19 僧帽弁形成術後17年目に僧帽弁輪に可動性血栓を認めた1例
 (海老名総合病院循環器内科) 円谷 斉子
 奥田 彩楽、斎藤 崇史、鈴木 俊彦、佐藤 正雄、
 飯田 剛幸、岩本讓太郎、高頭健太郎、長岡 優多、
 田邊 晃久

V-20 CO₂貯留を伴う僧帽弁閉鎖不全症に対しロボットを用いた完全内視鏡下僧帽弁形成術を施行し奏功した一例
 (ニューハート・ワタナベ国際病院心臓外科) 加藤 裕樹
 宮城 基、小坪 徹、堀川 貴史、石川 紀彦、
 富田 重之、大塚 俊哉、渡邊 剛

V-21 薬物治療抵抗性の重症二次性三尖弁閉鎖不全症を伴う心不全に対して外科的治療を施行した一例
 (茅ヶ崎市立病院循環器内科) 三枝 雄樹
 中戸川知頼、三橋 孝之、古賀伸太郎、児玉 翔

ランチョンセミナー5 12:20-13:10 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
 座長 (神原記念財団附属神原記念クリニック/附属神原記念病院) 井口 信雄

「心不全診療の最前線」
 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 村上 力

一般演題 セッション13 カテーテルアブレーション

13:20-14:00

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 柳下 敦彦
座長 (東京山手メディカルセンター循環器内科) 中村 玲奈
コメンテーター (杏林大学不整脈先進治療学研究講座) 上田 明子

V-22 EnSiteXのOT certaintyを調整し、1点のみの通電で上大静脈隔離に成功した1例

(広尾病院循環器科) 砂川 昌隆
三浦麻利衣、小峰 征也、鈴木 美波、津野 航、
佐々木高史、鯨岡 裕史、山岡広一郎、新井 智之、
吉田 精孝、高橋 正雄、北條林太郎、土山 高明、
深水 誠二

V-23 MAZE手術及びアブレーション治療後に難治性の左房内血栓を来した1例

(ニューハート・ワタナベ国際病院) 芝山納恵瑠
今村 泰崇、黒岩 信行、渡邊 剛
(みわハートクリニック) 三輪 陽介
(杏林大学医学部付属病院) 星田 京子
(佼成会病院) 百瀬 裕一

V-24 治療に難渋する心房細動においてVein of Marshallを介した伝導が起因したと考えられる1例

(ニューハート・ワタナベ国際病院) 芝山納恵瑠
今村 泰崇、黒岩 信行、渡邊 剛
(みわハートクリニック) 三輪 陽介
(杏林大学医学部付属病院) 星田 京子
(佼成会病院) 百瀬 裕一

V-25 心房頻拍と心房細動の混在からstepwise ablationにより治療し得た一例

(日本赤十字社医療センター循環器内科) 曾根田佳久
越田 直也、山本 溪介、瀧澤 雅隆、魚住 博記、
池ノ内 浩
(日本赤十字社医療センター循環器内科/東京大学医学部附属病院循環器内科) 小島 敏弥
(東京大学医学部附属病院循環器内科) 武田 憲彦

V-26 カテーテルアブレーションによる洞結節修飾術が奏功したinappropriate sinus tachycardiaの若年女性の一例

(かわぐち心臓呼吸器病院) 川原 隆道
宮内 靖史、太田 裕士、油井 慶晃、増田 暉、
西脇 溪、石塚 淳史、徳山 榮男、秋山 英一、
佐藤 直樹

一般演題 セッション14 不整脈

14:10-14:50

座長 (日本医科大学付属病院循環器内科) 岩崎 雄樹
座長 (荻窪病院循環器内科) 宗次 裕美
コメンテーター (信州大学病院循環器内科) 岡田 綾子

V-27 難治性心室細動を左室前乳頭筋起源の心室期外収縮に対するカテーテルアブレーションにより救命し得た1例

(東海大学医学部内科学系循環器内科学) 飯村 和真
柳下 敦彦、神宮紘太郎、北澤 拓治、李 勳熙、
坂間 晋、網野 真理、伊苺 裕二、吉岡公一郎

V-28 心房細動に対するカテーテルアブレーションに関連する画像検査において三心房心を解剖学的に評価できた一例

(川口市立医療センター循環器科) 林田 啓
三輪明日香、増田 光、新井 基広、笹 優輔、
庄司 泰城、須貝昌之助、渥美 渉、池田 敦、
立花 栄三、國本 聡

V-29 心房細動アブレーション後10年の経過で左心耳が自然に電氣的隔離され、心原性脳梗塞を繰り返した一例

(土浦協同病院循環器内科) 原 聡史
久佐 茂樹、田原 智大、石沢 太基、平野 秀典、
仲田 恭崇、土居 惇一、佐藤 慶和、三輪 尚之、
久佐 茂樹、蜂谷 仁

V-30 化学療法による心臓原発性悪性リンパ腫の治療が不整脈治療に奏功した一例

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 佐藤みどり
山本 真吾、牧 尚孝、大橋 潤平、林 達哉、
藤田 英雄

V-31 直接経口抗凝固薬 (DOAC) 適正投与計算アプリケーションについて

(山梨病院) 菅又 渉

デザートセミナー4

15:00-15:50

共催：バイエル薬品株式会社

座長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 石橋 祐記

循環器疾患における多角的治療

「血管内視鏡から考えるLEADの抗血栓療法」

(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 小嶋 啓介

「不整脈専門医から診る心不全治療」

(慶應義塾大学医学部不整脈先進治療学寄付研究講座) 西山崇比古

医療安全・医療倫理に関する講習会 (DVDセッション)

16:00-18:00

本セッションでは、第88回日本循環器学会学術集会で収録したプログラムをご覧ください。

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第 16 条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヶ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第 17 条 各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規程は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都新宿区笹岡町43 新神楽坂ビル2F 有限会社ビジョンブリッジ内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、支部規程第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(副支部長)

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

- 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
- 支部長に事故あるとき、又は支部長が別の支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。
- 副支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を順守しなければならない。

(支部役員)

第5条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

4. 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
5. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条

2. 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC講習会担当幹事1名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事1名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 支部事務局担当幹事ならびにJCS-ITC担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第8条

2. 支部規程第10条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より15日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の3項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65歳以下で7年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去5年間に3演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

(地方会会長)

第9条

2. 支部規程第11条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より15日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自

己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。

5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。
10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第10条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第11条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第12条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。

10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めたとおりとする。

(JCS-ITC 講習会)

第13条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）

11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第14条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

令和5年10月1日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。
2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。
2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。
1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

たった一度のいのちと歩く。

私たちの志

ここに在る責任と幸福。

私たちの前には、いつもかけがえのないいのちがあり、
祝福されて生まれ、いつくしむの中で育ち、夢に胸を膨ら
しあわせになることを願って生きるいのち。
まず、私たちは、この世上でもっとも大切なもの、いのちの
胸の奥深くに刻むこと。

そのために、私たち製薬会社にできることは無数にある。

自分たちを信じよう。自分たちの力を、自分たちを信じて
私たちは、決して大きな会社ではない。でも、どこにもない歴史があり、どこにもマネの
そしてどこにも真けない優秀な人材がいる。

困難をおそれない勇気を持とう。常識を飛び越えよう。
革新とは、ただの成長ではない。飛躍と成長を兼ねよう。

その真は、現状に満足する者には永久につくものは、薬だけでは足りない。私たちが
人がどれほど生きることを望んでいるか。それを知らなくとも、

医療に従事する人がどれほどひとりで、誰か一人の命を救うこと、
人間に与えられた感受性をサビつかせ、その人の人生を豊かに
世界を救うのは薬だけではなく、人間性、誠実さが必要。

最高のチームになろう。どんな時も、一人ひとりが必要とされる
力をあわせ人間というもの、一人ひとりはあり、一人ひとりが
スピードをあげよう。いまこそ、一人ひとりが、一人ひとりが、一人ひとりが、

私たちは、その願いがどんな時も、病とけん闘し、病とけん闘し、病とけん闘し、
急いで、走ってはいけないが、止まらなければならない。止まらなければならない。止まらなければならない。
そして、どんな時も誠実であり、

私たちは薬をつくらせている。人のいのちを救うこと、心豊かに生きることを、
世界に示したいと思う。

仕事は、人をしあわせにできる。いつも、私たちはそのことを忘れずにいよう。

私たちは、さまざまな場所で生まれ、さまざまな時間を経て、さながら奇蹟のように、
この仕事、この会社、この仲間に出会った。そのことを心からよろこぼう。

そして、いまここにいる自分に感謝し、その使命に心血をそそぎ、かけがえのない
いのちのために働くことを、誇りとしよう。

人間の情熱を、人間のために使うしあわせ。私たちは、ひとりひとりが協和キリンです。

たった一度の、いのちと歩く。

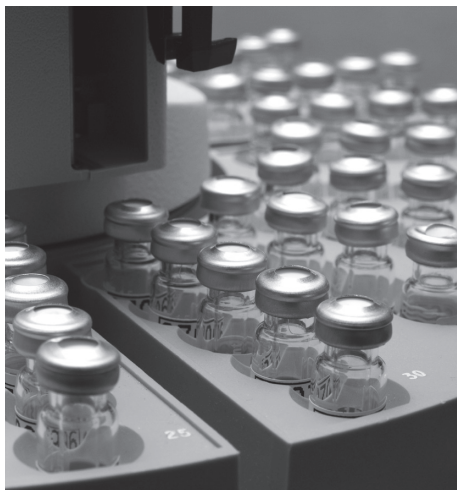


私たちの志 検索

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アムジェン株式会社の
詳細につきましては
こちらをご覧ください



アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。

バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。

40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。

日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社 **AMGEN**[®]

選択肢をつくる。

希望をつくる。

なんでも選べるこの時代に、

まだ選択肢が足りない世界があります。

そこでは、たったひとつの選択肢が生まれることが、

たくさんの希望につながります。

だから、田辺三菱製薬はつくります。

病と向き合うすべての人に、希望ある選択肢を。


この国でいちばん長く培ってきた

薬づくりの力を生かして、

さまざまな分野で、挑みつけていきます。

そこに待っている人がいるかぎり。



 田辺三菱製薬

<https://www.mt-pharma.co.jp/>

 MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP

新しい
生きるを、
創る。

独自技術で難病に挑み、
ひとりの「生きる」に希望をとどける。
ユニークな機能性食品で、
みんなの「生きる」を健やかにする。
新しい時代の、新しい生きるを、
わたしたちは、創っていく。



薬価基準収載
選択的尿酸再吸収阻害薬 一高尿酸血症治療剤一

ユリス錠 0.5mg
1mg
2mg

〔ドチヌラド〕 処方箋医薬品^注

URECE Tablets 0.5mg・1mg・2mg

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等は電子添文をご参照ください。



販売<文献請求先及び問い合わせ先>
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522 (くすり相談窓口)



製造販売元<文献請求先及び問い合わせ先>
株式会社富士薬品
〒330-9508 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4丁目383番地
TEL 048-644-3247 (カスタマーサービスセンター)

2023年3月作成 (N5)



高脂血症治療剤

薬価基準収載

パルモディア[®]錠 0.1mg

PARMODIA[®] TABLETS 0.1mg (ペマフィブラート錠)

処方箋医薬品・注意-医師等の処方箋により使用すること

高脂血症治療剤

薬価基準収載

**パルモディア[®]XR 錠 0.2mg
錠 0.4mg**

PARMODIA[®] XR TABLETS 0.2mg・0.4mg (ペマフィブラート徐放錠)

処方箋医薬品・注意-医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)

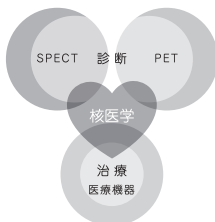
興和株式会社

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

2023年12月作成

nihon
medi+physics

for the happiness



明日の幸せを願い、「診る」そして「治す」核医学。

私たちは、がんや心臓病、脳血管疾患および認知症などの早期発見に役立つSPECT・PET検査用放射性医薬品や、がん治療用の医療機器、治療薬などの創出を通じ、これからも皆様の健康に貢献します。

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号 TEL (03) 5634-7006 (代)
<https://www.nmp.co.jp/>

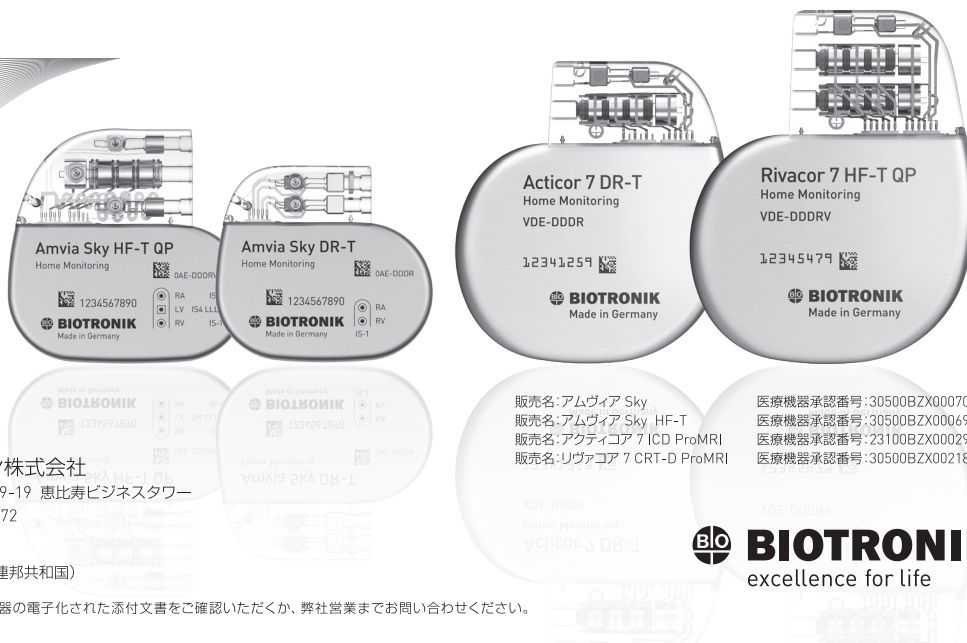
 **日本メジフィジックス株式会社**

2019年4月改訂



Designed for Japan
Made in Germany

BIOTRONIK は、日本の医療従事者のご意見を
具現化しています。



製造販売業者

バイオトニックジャパン株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー

Tel.03-3473-7471 Fax.03-3473-7472

外国製造業者

BIOTRONIK SE & Co. KG (ドイツ連邦共和国)

製品の詳細に関しては、該当する医療機器の電子化された添付文書をご確認いただくか、弊社営業までお問い合わせください。

販売名: アムヴィア Sky
販売名: アムヴィア Sky HF-T
販売名: アクティコア 7 ICD ProMRI
販売名: リヴァコア 7 CRT-D ProMRI

医療機器承認番号: 30500BZX00070000
医療機器承認番号: 30500BZX00069000
医療機器承認番号: 23100BZX00029000
医療機器承認番号: 30500BZX00218000

BIOTRONIK
excellence for life

